

令和8年6月

## 令和7年度卒業・修了予定者アンケート調査集計結果報告書

北海道医療大学  
点検・評価全学審議会

点検・評価全学審議会は、内部質保証システムを策定し、多方面からの視点により点検・評価を実施することとし、本学の教育理念・教育目標を達成するための大学づくりを目指している。

その一環として、卒業・修了予定の学生に対し、教育の質保証の観点から本学の教育により修得した知識や能力の達成度などについて評価・意見を聴取するため、アンケート調査を実施した。協力いただいた学生各位に対し厚くお礼を申し上げますと共に、その集計結果をホームページに公表することとした。

なお、この調査結果を今後の本学における教育のあり方についての点検・評価の基礎資料として活用することとする。

## 令和7年度卒業・修了予定者アンケート調査集計結果

目的：卒業・修了予定者アンケート調査は、教育の質保証の視点から学部卒業生に対して学士課程における学習成果、大学院修了生に対して修士または博士課程における知識・能力の修得度合いについて調査し、教育目標・教育プログラムの教育効果の検証に資することを目的とする。

調査方法：令和7年度卒業生・修了生を対象にカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーおよび修得すべき知識・能力について、別紙アンケート調査を実施した。

調査期間：令和7年8月から令和8年3月までの期間に学部（学科）・研究科別に実施した。

回答率：大学（学部・学科）の回答率 80.0%、大学院の回答率は 28.8%

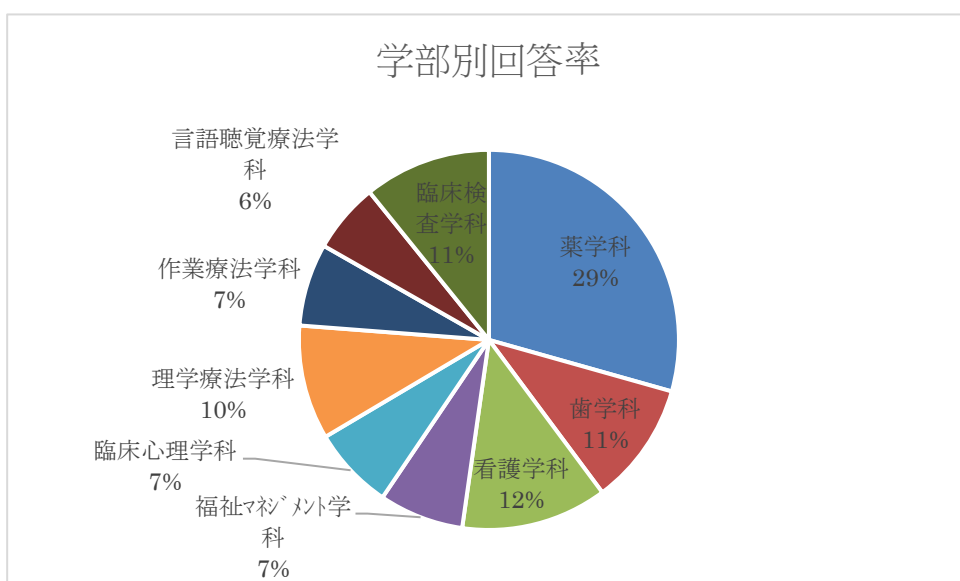
### I. 大学・学部

#### ■回答率

学部・学科		卒業予定者数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
薬学部	薬学科	170	163	95.9%
歯学部	歯学科	68	58	85.3%
看護福祉学部	看護学科	109	69	63.3%
	福祉マネジメント学科	54	40	74.1%
心理科学部	臨床心理学科	60	39	65.0%
リハビリテーション科学部	理学療法学科	78	54	69.2%
	作業療法学科	40	39	97.5%
	言語聴覚療法学科	49	33	67.3%
医療技術学部	臨床検査学科	66	60	90.9%
大学全体		694	555	80.0%

※卒業予定者：令和7年8月1日付 最終学年学生数（休学者〈後期休学、通年休学〉を除く）

#### ■学部別回答率



### <調査概要>

北海道医療大学の卒業予定者を対象とし、本学の学士課程（学部）教育の改善に役立てることを目的として実施。各学部の教育理念・目的・目標およびこれらに基づき定めている「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」の達成度を測る内容にて調査している。

### ■学位授与の方針に基づく自己評価

○選択肢「4. 身についた 3. 概ね身についた 2. あまり身につかなかった 1. 身につかなかった」

### <薬学部>

項目名	回答 4	回答 3	回答 2	回答 1	無回答	3・4 回答率
A. 医療人として求められる高い倫理観	75	82	4	2	0	96.3%
B. 関係法令の理解	54	103	4	2	0	96.3%
C. 他者を思いやる豊かな人間性	84	68	9	2	0	93.3%
D. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用前の薬学知識	60	95	6	2	0	95.1%
E. 多種職が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力	55	81	23	4	0	83.4%
F. 医療の進歩に対応できる柔軟性	52	90	19	2	0	87.1%
G. 臨床における問題点を発見・解決する能力	49	90	18	6	0	85.3%
H. 後進の育成に努め、かつ生涯にわたって常に学び続ける姿勢と意欲	61	86	12	4	0	90.2%

<歯学部>

項目名	回答 4	回答 3	回答 2	回答 1	無回答	3・4 回答率
A. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術	26	27	5	0	0	91.4%
B. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観	30	25	2	1	0	94.8%
C. 他者を思いやる豊かな人間性	25	28	4	1	0	91.4%
D. 優れたコミュニケーション能力	22	24	9	3	0	79.3%
E. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力	23	26	7	2	0	84.5%
F. 多種職（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる力	24	25	7	2	0	84.5%
G. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力	22	26	8	2	0	82.8%

<看護福祉学部・看護学科>

項目名	回答 4	回答 3	回答 2	回答 1	無回答	3・4 回答率
A. 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観	51	17	1	0	0	98.6%
B. 豊かな人間性	46	21	1	1	0	97.1%
C. 看護専門職に必要な知識・技術	46	22	1	0	0	98.6%
D. 健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力	43	23	3	0	0	95.7%
E. 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽する力	44	23	2	0	0	97.1%
F. 自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力	44	25	0	0	0	100.0%
G. 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力	50	15	4	0	0	94.2%
H. 多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力	46	22	1	0	0	98.6%

<看護福祉学部・福祉マネジメント学科>

項目名	回答 4	回答 3	回答 2	回答 1	無回答	3・4 回答率
A. 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観	23	16	1	0	0	97.5%
B. 豊かな人間性	19	21	0	0	0	100.0%
C. 福祉専門職に必要な知識・技術	21	18	1	0	0	97.5%
D. 健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力	16	22	2	0	0	95.0%
E. 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽する力	14	25	1	0	0	97.5%
F. 自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力	14	21	5	0	0	87.5%
G. 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力	17	22	1	0	0	97.5%
H. 多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力	15	19	6	0	0	85.0%

<心理科学部・臨床心理学科>

項目名	回答 4	回答 3	回答 2	回答 1	無回答	3・4 回答率
A. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識	20	17	2	0	0	94.9%
B. 社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力	16	21	2	0	0	94.9%
C. 社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能	22	17	0	0	0	100.0%

<リハビリテーション科学部・理学療法学科>

項目名	回答 4	回答 3	回答 2	回答 1	無回答	3・4 回答率
A. 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養	31	21	1	1	0	96.3%
B. 豊かな人間性	31	20	3	0	0	94.4%
C. 高い倫理観	31	21	2	0	0	96.3%
D. 優れたコミュニケーション能力	27	24	3	0	0	94.4%
E. 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力	27	24	3	0	0	94.4%
F. 理学療法士として必要な科学的知識や技術	26	25	3	0	0	94.4%
G. 心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力	26	25	3	0	0	94.4%
H. 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力	24	25	5	0	0	90.7%
I. 国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力	22	26	5	1	0	88.9%
J. 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を実践できる能力	27	23	4	0	0	92.6%

<リハビリテーション科学部・作業療法学科>

項目名	回答 4	回答 3	回答 2	回答 1	無回答	3・4 回答率
A. 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養	13	25	1	0	0	97.4%
B. 豊かな人間性	10	27	2	0	0	94.9%
C. 高い倫理観	12	23	4	0	0	89.7%
D. 優れたコミュニケーション能力	9	24	6	0	0	84.6%
E. 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力	8	29	2	0	0	94.9%
F. 作業療法士として必要な科学的知識や技術	14	21	4	0	0	89.7%
G. 心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力	12	23	4	0	0	89.7%
H. 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力	13	20	6	0	0	84.6%
I. 国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力	11	19	7	2	0	76.9%
J. 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および作業療法科学の開発を実践できる能力	9	24	6	0	0	84.6%

<リハビリテーション科学部・言語聴覚療法学科>

項目名	回答 4	回答 3	回答 2	回答 1	無回答	3・4 回答率
A. 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養	15	18	0	0	0	100.0%
B. 豊かな人間性	13	20	0	0	0	100.0%
C. 高い倫理観	15	18	0	0	0	100.0%
D. 優れたコミュニケーション能力	13	16	4	0	0	87.9%
E. 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力	13	20	0	0	0	100.0%
F. 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術	16	17	0	0	0	100.0%
G. 心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力	16	16	1	0	0	97.0%
H. 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力	16	16	1	0	0	97.0%
I. 国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力	13	19	1	0	0	97.0%
J. 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および言語聴覚療法学の開発を実践できる能力	13	20	0	0	0	100.0%

<医療技術学部・臨床検査学科>

項目名	回答 4	回答 3	回答 2	回答 1	無回答	3・4 回答率
A. 生命の尊重を基盤とした豊かな人間性	33	27	0	0	0	100.0%
B. 幅広い教養	37	23	0	0	0	100.0%
C. 高い倫理観	31	29	0	0	0	100.0%
D. 臨床検査に必要な知識と技術	38	21	1	0	0	98.3%
E. 先進・高度化する医療に対応できる実践能力	27	31	2	0	0	96.7%
F. 保健・医療・福祉の各分野の役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚とそれを実践するための専門性と協調性	40	20	0	0	0	100.0%
G. 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢	37	23	0	0	0	100.0%
H. 多様な文化や価値観を尊重し、地域的・国際的な視野で活躍できる能力	31	29	0	0	0	100.0%
I. 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力	31	28	1	0	0	98.3%

## ■授業科目の満足度

### 1. 全学教育科目-「教養教育」「基礎教育」「医療基盤教育」の3つの分野で構成

○項目「A 教養教育」「B 基礎教育」「C 医療基盤教育」「D カリキュラム全体」

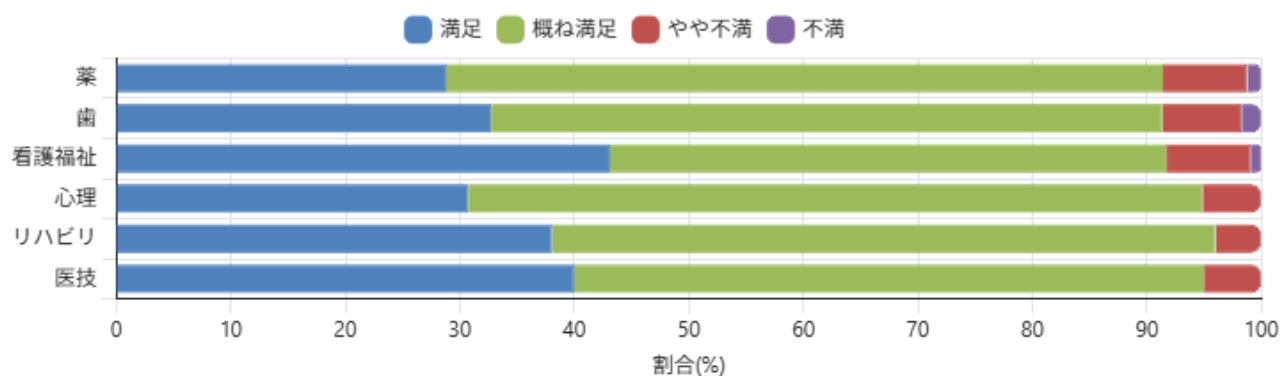
○選択肢「4. 満足」「3. 概ね満足」「2. やや不満」「1. 不満」

「満足」「概ね満足」と回答した割合の合計（以下、「満足度」と表記）は、下表のとおり。

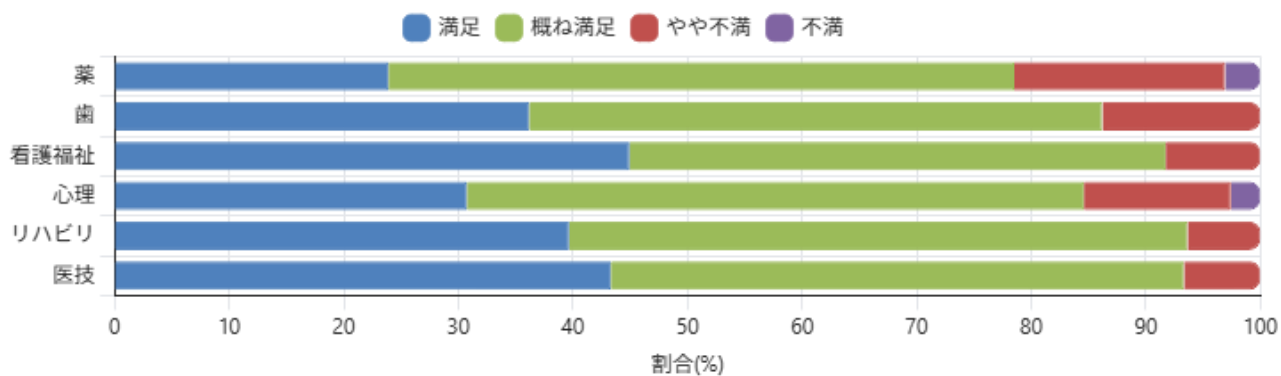
（単位：％、カッコ内は前年）

学部等	項目	A 教養教育	B 基礎教育	C 医療基盤教育	D カリキュラム全体
大学全体		93.2 (93.5)	87.4 (88.5)	92.6 (94.6)	92.1 (93.5)
薬学部		91.4 (94.8)	78.5 (87.6)	91.4 (97.9)	87.1 (92.8)
歯学部		91.4 (91.7)	86.2 (91.7)	89.7 (91.7)	86.2 (91.7)
看護福祉学部		91.7 (88.9)	91.7 (88.9)	91.7 (94.4)	92.7 (94.4)
心理科学部		94.9 (94.5)	84.6 (81.8)	92.3 (90.9)	97.4 (94.5)
リハビリテーション科学部		96.0 (97.6)	93.7 (95.1)	93.7 (90.2)	96.0 (95.1)
医療技術科学部		95.0 (88.4)	93.3 (90.7)	98.3 (97.7)	98.3 (93.0)

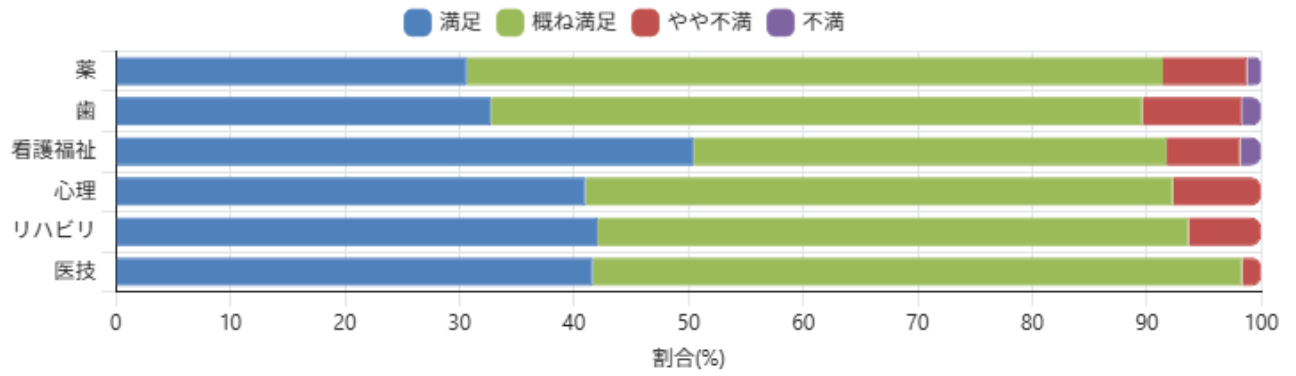
【A 教養教育】



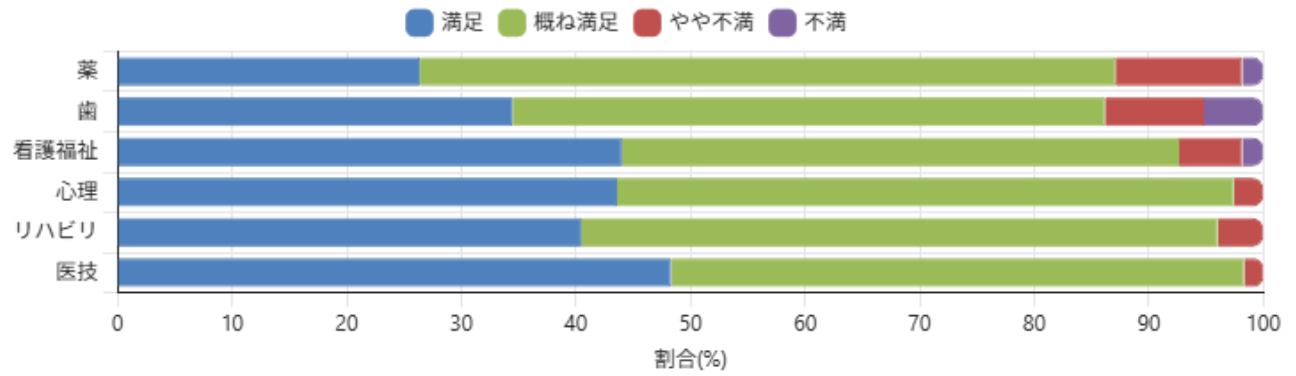
【B 基礎教育】



【C 医療基盤教育】



【D カリキュラム全体】



## 2. 専門教育科目

○項目 各学部の専門教育科目の分類による。

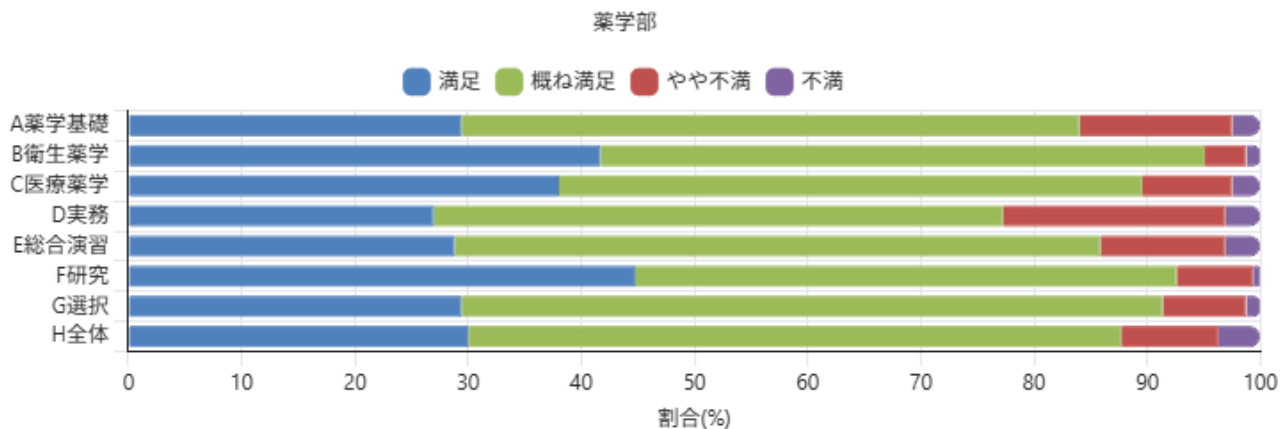
○選択肢「4. 満足」「3. 概ね満足」「2. やや不満」「1. 不満」

「4. 満足」「3. 概ね満足」と回答した割合（以下「満足度」と表記）は、下記の各表のとおり。

（単位：％、カッコ内は前年）

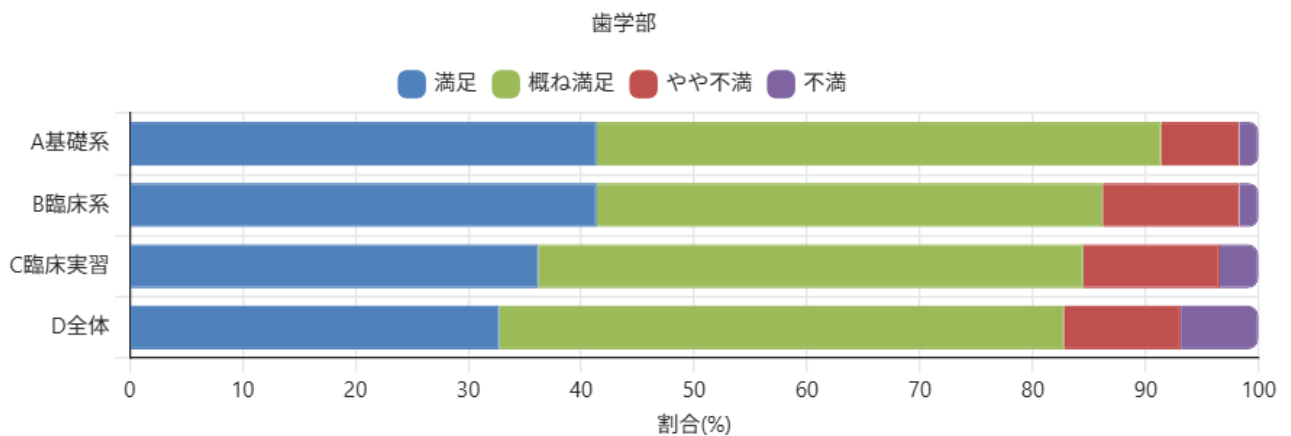
### ●薬学部

A 薬学基礎	B 衛生薬学	C 医療薬学	D 実務薬学/社会薬学/他
84.0 (87.6)	95.1 (96.9)	89.6 (90.7)	77.3 (93.8)
E 総合演習	F 研究	G 選択科目	H カリキュラム全体
85.9 (92.8)	92.6 (93.8)	91.4 (95.9)	87.7 (92.8)



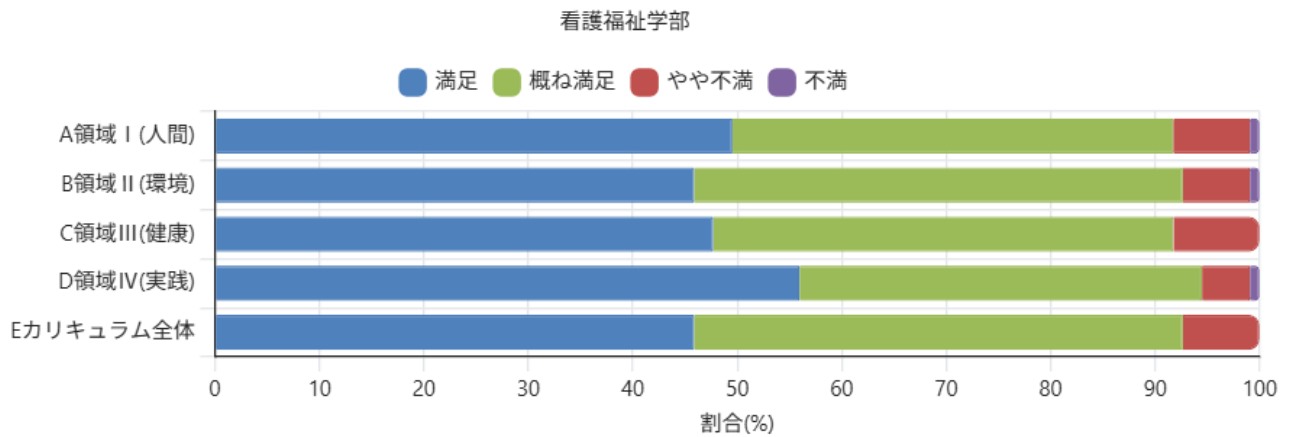
### ●歯学部

A 基礎系科目・実習	B 臨床系科目・実習	C 臨床実習	D カリキュラム全体
91.4 (95.8)	86.2 (95.8)	84.5 (87.5)	82.8 (95.8)



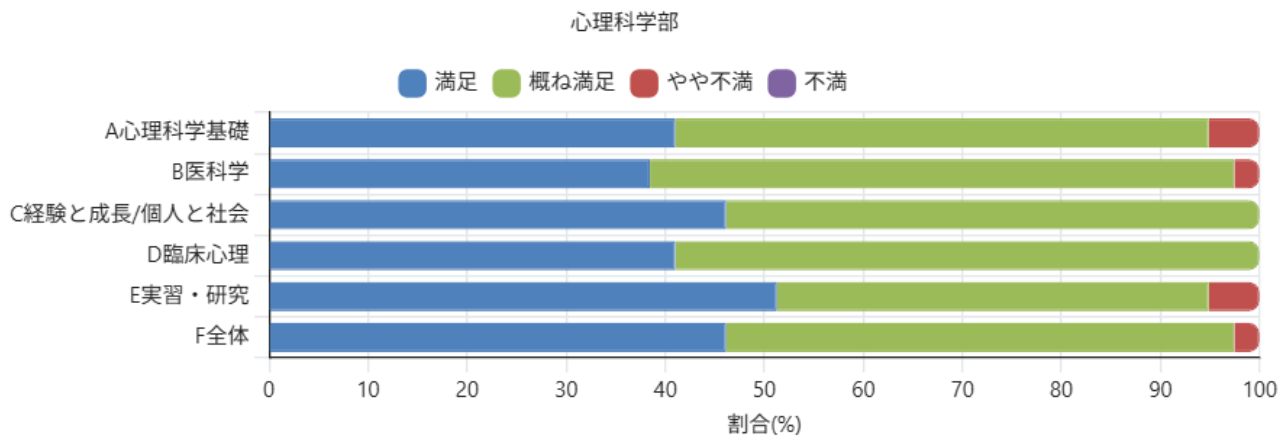
●看護福祉学部

A 領域Ⅰ(人間)	B 領域Ⅱ(環境)	C 領域Ⅲ(健康)	D 領域Ⅳ(実践)	E カリキュラム全体
91.7 (94.4)	92.7 (94.4)	91.7 (88.9)	94.5 (94.4)	92.7 (94.4)



●心理科学部 (臨床心理学科)

A 心理科学基礎	B 医科学	C 経験と成長/個人と社会
94.9 (90.9)	97.4 (95.6)	100.0 (96.4)
D 臨床心理の実践/査定と援助	E 実習/研究	F カリキュラム全体
100.0 (94.5)	94.9 (92.7)	97.4 (96.4)

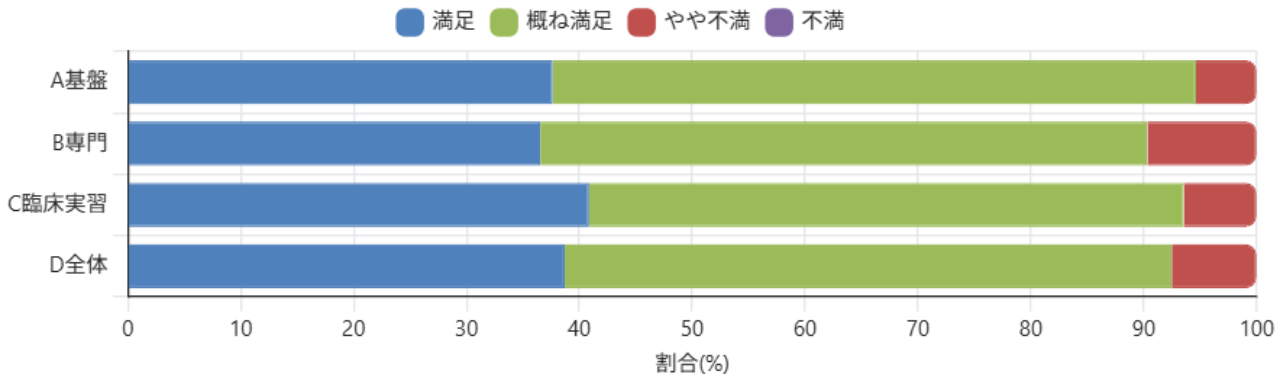


●リハビリテーション科学部

ア) 理学療法学科・作業療法学科

A リハビリテーション基盤	B 理学・作業療法専門	C 臨床実習	D カリキュラム全体
94.6 (100.0)	90.3 (95.7)	93.5 (95.7)	92.5 (95.7)

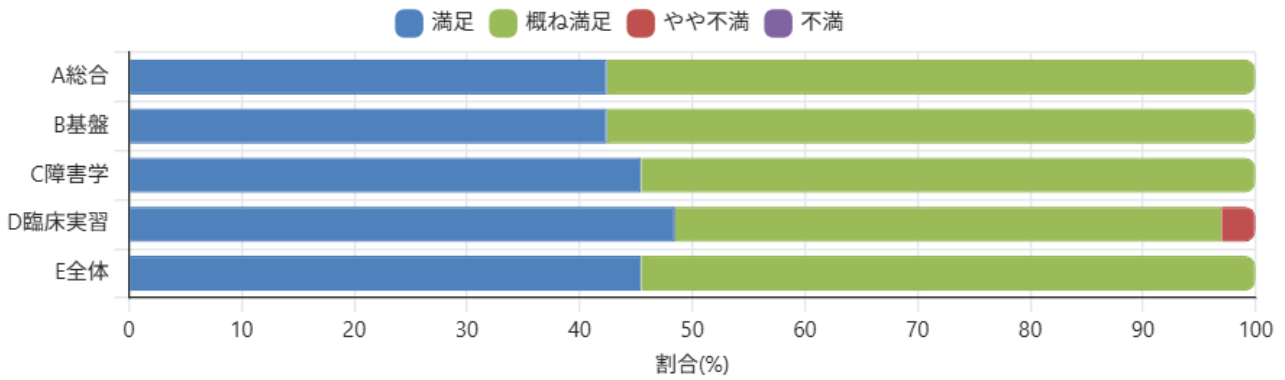
理学・作業



イ) 言語聴覚療法学科

A 言語聴覚学総合教育	B 言語聴覚学基盤教育	C 言語聴覚障害学教育	D 臨床実習	E カリキュラム全体
96.0 (88.9)	98.9 (88.9)	95.2 (88.9)	93.7 (94.4)	100.0 (100.0)

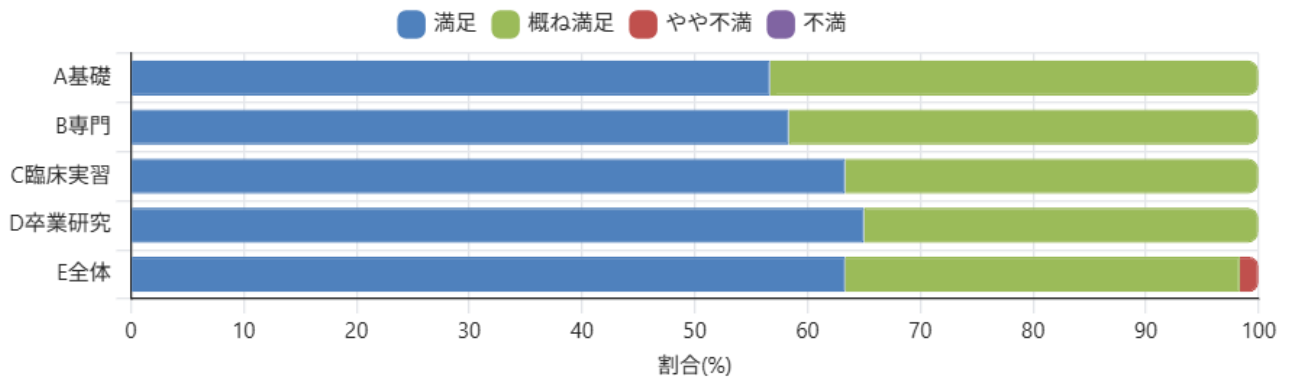
言語



●医療技術学部 (臨床検査学科)

A 基礎科目	B 専門科目	C 臨床実習	D 卒業研究	E カリキュラム全体
100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (97.7)	100.0 (97.7)	98.3 (100.0)

医療技術

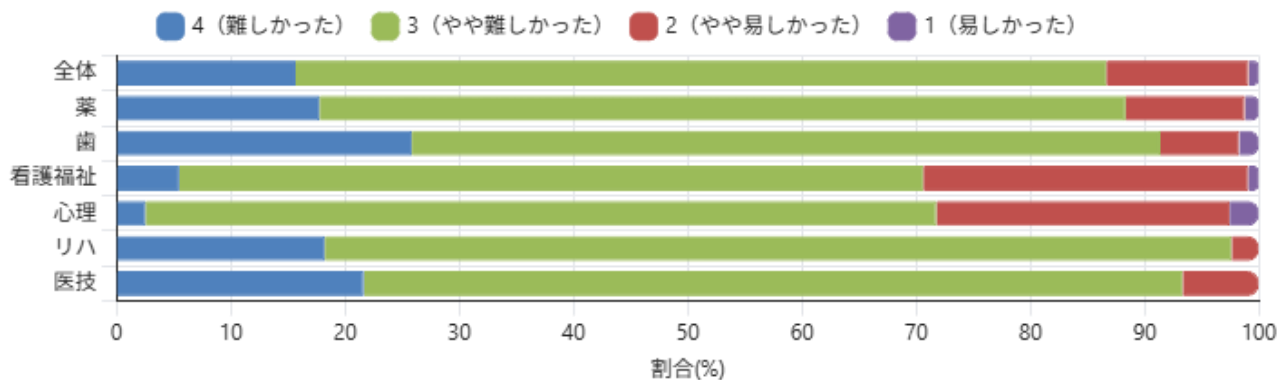


## ■教育プログラムの水準

○選択肢「4. 難しかった」「3. やや難しかった」「2. やや易しかった」「1. 易しかった」

大学全体	薬学部	歯学部	看護福祉学部	心理科学部	リハビリテーション科学部	医療技術学部
86.7 (88.1)	88.3 (87.6)	91.4 (87.5)	70.6 (83.3)	71.8 (80.0)	97.6 (97.6)	93.3 (93.0)

問6 (難易度：更新版)



## ■自由記述 (件数)

	知識・技能の修得成果	授業・カリキュラムの評価	教育内容・大学への要望
薬学部	1	22	13
歯学部	0	6	5
看護福祉学部	3	14	1
心理科学部	3	2	1
リハビリテーション科学部	2	2	4
医療技術学部	1	1	1

II. 大学院・研究科

■ 回答率

大学院・研究科		修了生数(人)	回答者数(人)と回答率	
薬学研究科	薬学専攻(博士課程)	5	1	20.0%
歯学研究科	歯学専攻(博士課程)	10	0	0.0%
看護福祉学研究科	看護学専攻(修士課程)	23	4	17.4%
	臨床福祉学専攻(修士課程)	4	2	50.0%
	看護学専攻(博士課程)	5	2	40.0%
	臨床福祉学専攻(博士課程)	1	0	0.0%
心理科学研究科	臨床心理学専攻(修士課程)	13	9	69.2%
	臨床心理学専攻(博士課程)	3	0	0.0%
リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻(修士課程)	6	2	33.3%
	リハビリテーション科学専攻(博士課程)	7	1	14.3%
医療技術科学研究科	臨床検査学専攻(修士課程)	3	2	66.7%
計		80	23	28.8%

※修了予定者数:令和7年8月1日付 最終学年学生数(休学者(後期休学、通年休学)を除く)

<調査概要>

■ 修士課程と博士課程の別による修得すべき知識・能力

問2で在学中、「大学院課程教育において修得すべき知識・能力」がどの程度身についたかを質問した。

○修得すべき知識・能力:下記の表を参照

○選択肢:「4. 身についた」、「3. 概ね身についた」、「2. あまり身につかなかった」、「1. 身につかなかった」

■ 課程において身につけるべき知識・技能の修得度

(2-1) 修士課程修了者

知識・能力	評価				4と3の合計と回答率	
	4	3	2	1		
A 問題発見能力および解決能力	10	8	1	0	18	94.7%
B 高度専門職能の基礎となる学識	9	9	1	0	18	94.7%
C チーム医療への対応	1	14	4	0	15	78.9%
D 社会に貢献できる能力	8	10	1	0	18	94.7%
E コミュニケーション能力	6	13	0	0	19	100.0%
F 国際的な視野	4	9	4	2	13	68.4%
G 高い倫理観	8	11	0	0	19	100.0%
H 自己研鑽能力	13	6	0	0	19	100.0%

(2-2) 博士課程修了者

知識・能力	評価				4と3の合計と回答率	
	4	3	2	1		
A 研究計画能力と研究実践能力	1	3	0	0	4	100.0%
B 研究競争力と問題処理能力	1	3	0	0	4	100.0%
C 高度専門知識	1	3	0	0	4	100.0%
D コミュニケーション能力	1	3	0	0	4	100.0%
E 国際的な視野と行動力	1	3	0	0	4	100.0%
F 責任性と高い倫理観	1	3	0	0	4	100.0%
G 知的技術者(実践技術者)能力	1	3	0	0	4	100.0%
H 指導者の能力	0	4	0	0	4	100.0%
I 自己研鑽能力	2	2	0	0	4	100.0%
J 論文作成能力	2	2	0	0	4	100.0%

■ 教育プログラム全体の達成度

○選択肢:「4. 達成した」、「3. 概ね達成した」、「2. あまり達成しなかった」、「1. 達成しなかった」

課程	評価				4と3の合計と回答率	
	4	3	2	1		
修士課程	7	11	1	0	18	94.7%
博士課程	1	3	0	0	4	100.0%

■ 課程修了後の進路選択に関する所属研究科の教育プログラム全体の有用度

○選択肢:「4. 有用であった」、「3. 概ね有用であった」、「2. あまり有用でなかった」、「1. 有用でなかった」

課程	評価				4と3の合計と回答率	
	4	3	2	1		
修士課程	14	5	0	0	19	100.0%
博士課程	3	1	0	0	4	100.0%

■教育プログラムの水準

○選択肢:「4. 難しかった」、「3. やや難しかった」、「2. やや易しかった」、「1. 易しかった」

課程 \ 評価	4	3	2	1	4と3の合計と回答率	
修士課程	1	11	7	0	12	63.2%
博士課程	1	3	0	0	4	100.0%

■自由記述件数

研究科 \ 項目	知識・技能の修得成果	授業・カリキュラムの評価	教育内容・大学への要望
看護福祉学研究科	2	2	0
心理科学研究科	1	0	0
リハビリテーション科学研究科	0	1	0

令和8年6月

令和7年度卒業予定者アンケート調査集計結果報告書  
(歯学部附属歯科衛生士専門学校)

北海道医療大学  
点検・評価全学審議会

点検・評価全学審議会は、内部質保証システムを策定し、多方面からの視点により点検・評価を実施することとし、学校運営及び教育活動の質の向上を目指している。

その一環として、卒業予定の学生に対し、教育の質保証の観点から本校の教育により修得した知識や能力の達成度などについて評価・意見を聴取するため、アンケート調査を実施した。協力いただいた学生各位に対し厚くお礼を申し上げますと共に、その集計結果をホームページに公表することとした。

なお、この調査結果を今後の本校における教育のあり方についての点検・評価の基礎資料として活用することとする。

## 令和7年度卒業予定者アンケート調査集計結果

目的：卒業予定者アンケート調査は、教育の質保証の観点から卒業生に対して専門学校における学習成果等について調査し、教育効果の検証や学生支援体制の向上等に資することを目的とする。

調査方法：令和7年度卒業生を対象に修得すべき知識・能力等について、別紙アンケート調査を実施した。

調査期間：令和7年8月～令和8年3月

回答率：100.0%（回答者18名／卒業生予定者数18名）

※卒業予定者：令和7年8月1日付 最終学年学生数（休学者〈後期休学、通年休学〉を除く）

<調査概要>

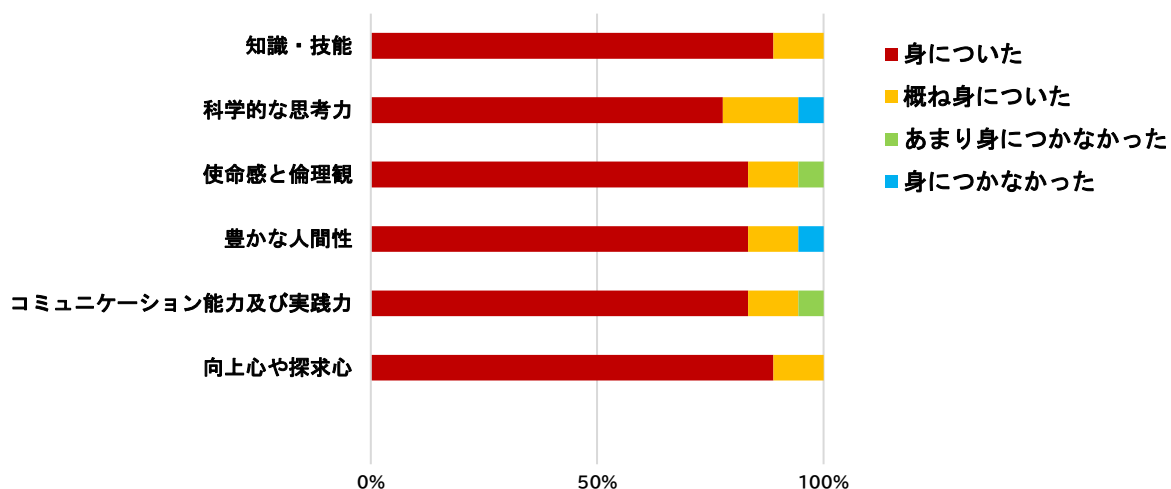
■基本情報：①通学方法 ②居住形態 ③クラブ・サークル（学内団体）への所属

### 1. 「卒業の認定に関する方針」に基づく能力の自己評価について

「4. 身についた」「3. 概ね身についた」「2. あまり身につかなかった」「1. 身につかなかった」

項目名	回答 4	回答 3	回答 2	回答 1	無回答	3・4 回答率
A 歯科衛生士に必要な知識・技能	16	2	0	0	0	100.0%
B 科学的な思考力	14	3	0	1	0	94.4%
C 高い使命感と倫理観	15	2	1	0	0	94.4%
D 豊かな人間性	15	2	0	1	0	94.4%
E チーム医療に貢献できるコミュニケーション能力及び実践力	15	2	1	0	0	94.4%
F 口腔保健の専門家として生涯にわたって自己研鑽する 向上心や探求心	16	2	0	0	0	100.0%

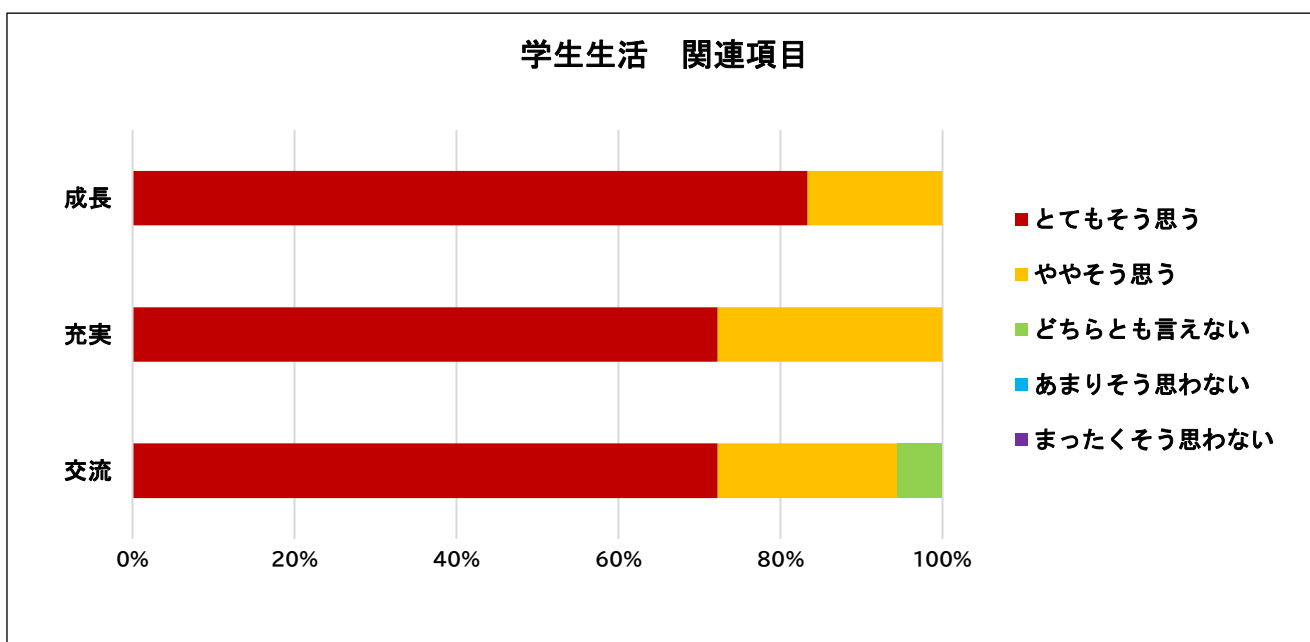
### 「卒業の認定に関する方針」に基づく能力



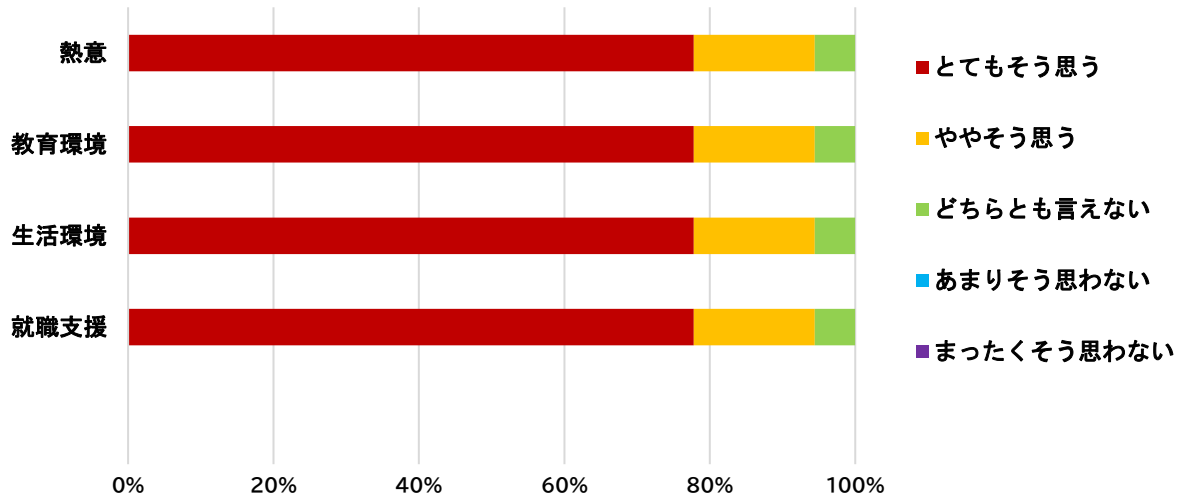
## 2. 学生生活・教員・教育環境等について

「5. とてもそう思う」「4. ややそう思う」「3. どちらとも言えない」「2. あまりそう思わない」  
 「1. まったくそう思わない」

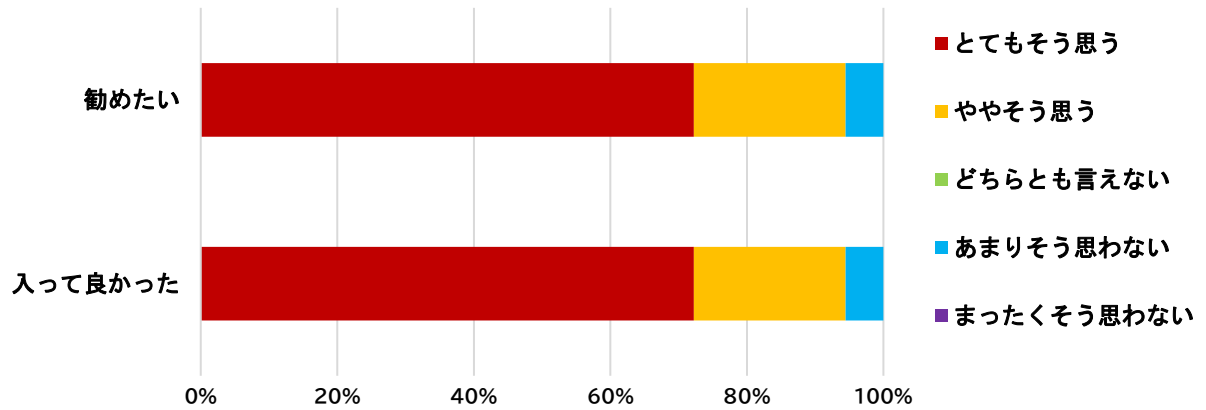
項目名	回答 5	回答 4	回答 3	回答 2	回答 1	4・5 回答率
問2 学生生活を通して成長できた	15	3	0	0	0	100.0%
問3 学生生活は充実していた	13	5	0	0	0	100.0%
問4 学部の学生と交流できた	13	4	1	0	0	94.4%
問5 先生は教育・指導に熱意を持っていた	14	3	1	0	0	94.4%
問6 職業人として必要な姿勢や考え方が身についた	14	3	1	0	0	94.4%
問7 主体性(物事に進んで取り組む力)が身についた	14	4	0	0	0	100.0%
問8 協調性が身についた	14	3	1	0	0	94.4%
問9 教室や実習室など、教育に関する環境は整っていた	14	3	1	0	0	94.4%
問10 食堂やトイレなど、学生生活に関する環境は整っていた	14	3	1	0	0	94.4%
問11 就職支援体制(ガイダンス・面接指導など)は十分だった	14	3	1	0	0	94.4%
問12 歯科衛生士に興味を持つ人がいれば、この学校を勧めたい	13	4	0	1	0	94.4%
問13 総合的に判断して、この学校に入って良かった	13	4	0	1	0	94.4%



### 教員・環境 関連項目



### 満足度



### 3. 自由記述

2件